ACTIVITY 年間活動

団体の動き

- 1月 自治体連携
- 3月 埼玉県戸田市学習支援
  Teach For Japan Annual Gathering@ 東京
  東京マラソン
- 4月 8期生春募集エントリー開始
- 8月 Teach For Japan Annual Gathering@福岡
  東京都北区学習支援
  Teach For All Asia Pacific East CEO Retreat@ タイ
  中央教育審議会提案
- 9月 未来の先生展 2019 出展
  埼玉県戸田市学習支援
- 10月 教師の日イベント主催
  Teach For All Global Conference@ アルメニア
- 11月 エデュコレ出展
- 12月 東京都北区学習支援

フェローの動き

- 2月 7期生・自治体面談
- 3月 5期生・修了式
  7期生・赴任前研修修了 / 壮行会
- 4月 6期生2年目スタート（6名）
  7期生赴任（2名）
- 7月 地域研修@福岡
  8期生研修スタート
  集合研修（深い自己認識）
- 8月 集合研修（SDGs）
- 9月 集合研修（コーチング・模擬授業）
- 10月 集合研修（アラムナイ実践報告・LGBT・イエナプラン・模擬授業）
- 11月 集合研修（デザイン思考・模擬授業）
- 12月 地域研修@福岡（PBL）

グローバルネットワーク Teach For All Asia Pacific Alumni Gathering に参加

品川女子学院 英語科主任 **山岡幸司** | 中高英語科の主任として、これからの時代を創るための英語教育改革に挑む。



アジア太平洋地域の12の国・地域から109名のアラムナイがマレーシアに集まりました。今後どんな課題に向き合うべきか議論しました。Teach For という共通のバックグラウンドを持った私たちには、言葉では言い表しがたいお互いへの信頼感と一体感がありました。世界各国でアラムナイが実践している優れた実践や事業についても知ることができ、国は違えど、未来を担う子どもたちのために力を尽くしている仲間がいることを心強く思いました。

Teach For Japan

所在地
東京オフィス　〒105-0004 東京都港区新橋 6-18-3 中村ビル 4 階
福岡オフィス　〒810-0041 福岡市中央区大名 2 丁目 4-22 新日本ビル 3F OnRAMP 内

連絡先
TEL: 03-6435-8031
MAIL：info@teachforjapan.org

設立
２０１０年９月１日

スタッフ
１８名（うち常勤７名・非常勤１１名）※２０２０年１月３１日現在

役員
代表理事：中原 健聡 (Teach For Japan CEO)
理事：松田 悠介 (Teach For Japan ファウンダー)
理事：川島 健資（元ドイツ証券株式会社取締役副会長）
理事：桜井 一正（株式会社ボストンコンサルティンググループ パートナー＆マネージングディレクター）
理事：白石 智哉（ソーシャル・インベストメント・パートナーズ　共同代表理事）
理事：田中 満公子（大阪教育大学 連合教職実践研究科 教授）
理事：三尾 徹（株式会社ミオアンドカンパニー　代表取締役）
監事：齋藤 宏一（アンダーソン・毛利法律事務所パートナー、弁護士）

寄付について

マンスリー・サポーター
月々 1000 円から、継続的にご支援いただく方法です。

ワンポイント・サポーター
1 回 1000 円から、その都度ご支援いただく方法です。

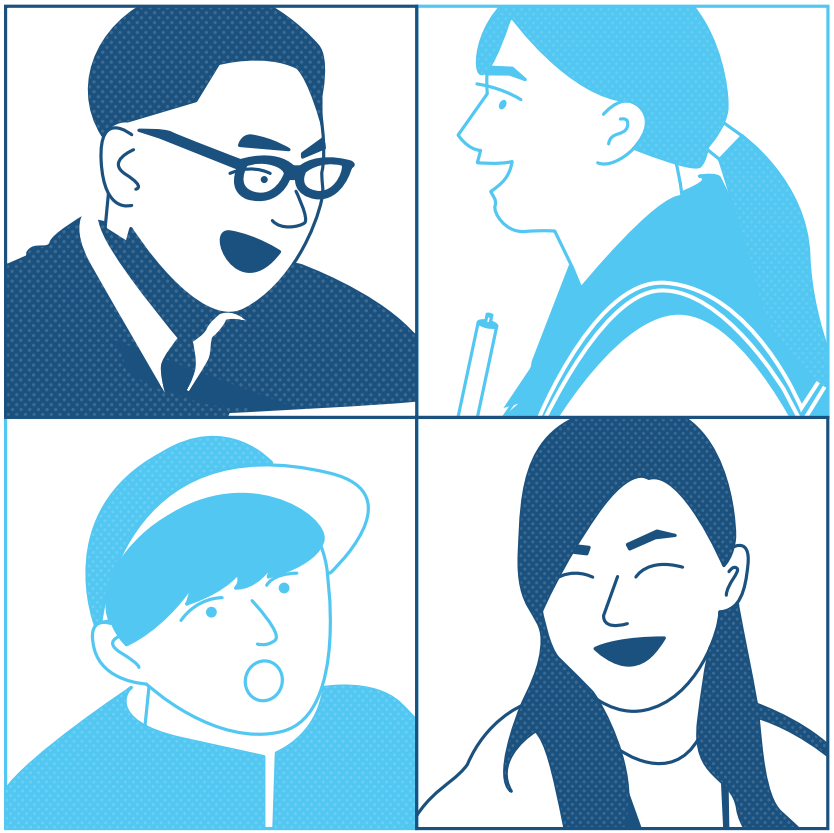
法人サポーター
貴社・貴団体にあった形で、ご寄付・ご協賛・ご支援いただく方法です。

詳しくは WEB サイトをご覧ください ▶

CHANGE MAKER

Annual Report
2019

TO CLASSROOM



教室から世界を変える
Teach For JAPAN

CONTENTS



①〜⑤では、フェロー（教師）の選考・研修からフェロー・アラムナイ（修了生）の活躍を掲載しています。
⑥以降では、自治体連携などの団体としての活動やTeach For Allの概要、応援いただいている方からのコメントをご紹介しています。



1 P4
選考のプロセス
独自の選考基準に基づいて、採用プロセスを設計しています。



Fellow フェロー

学校現場に赴任する教師のことをフェローと呼んでいます。
フェローは２年間、学校で先生として働きます。



2 P5 〜 P6
赴任前研修の取り組み
教職大学院の教授や外部の団体と連携して研修を運営しております。自己認識・教員スキル・チェンジメーカーとしての基礎の３部構成となっていることが特徴です。



6 P12
その他の事業
学習支援・大学生インターン運営・政策提言に取り組んでいます。

7 P13
自治体連携の取り組み
課題意識やビジョンを共有した自治体と連携し、フェローをご紹介しています。また、教師研修をともに企画・実施するなど、様々な連携を行っています。

OUTCOME
これまでの８年間で、全国 **11** の自治体と連携

66 名 のフェローが５５の学校現場に赴任してきました。そのうち、４４名のフェローが小学校にて、２２名のフェローが中学・高校に赴任することで

合計約 **7598** 名 の子どもたちと向き合ってまいりました。

3 P7 〜 P8
フェロー・学校連携の取り組み
フェローが赴任する学校とも連携し、その地域の子どもたちにとってより良い教育が届けられるよう、フェローのサポートをしています。

OUTCOME
＼過去最多／
2020 年 4 月より、**41** 名
のフェローが全国９都府県の自治体の小学校・中学校に赴任します。



Alumni アラムナイ

フェローシップ・プログラムが修了したフェローのことをアラムナイと呼んでいます。



4 P9 〜 P10
フェローの想いと、フェローが教えた子どもたちの声
フェローの想いと教え子の方々からいただいた温かいメッセージを紹介しています。



5 P11
修了生（アラムナイ）の取り組み
２年間、学校現場で目の前の子どもたちや教育課題と向き合ったアラムナイがチェンジメーカーとして様々なフィールドで社会変革に挑んでいます。

OUTCOME
卒業生の **79** % が教育関係の仕事に従事

59.6 % が学校教育の現場に残っています。

MESSAGE
Teach For Japan への応援メッセージ ―― P14

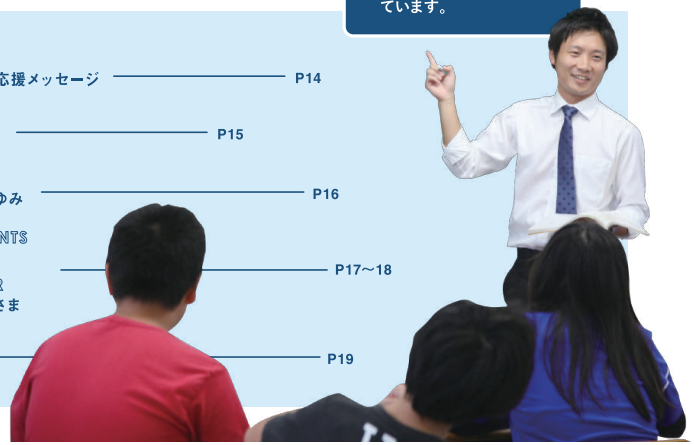
GLOBAL NETWORK
Teach For All について ―― P15

STORY
Teach For Japan のあゆみ ―― P16

FINANCIAL STATEMENTS
財務諸表 ―― P17〜18

PARTNER & SPONSOR
ご支援いただいている皆さま

ACTIVITY
年間活動 ―― P19



VISION

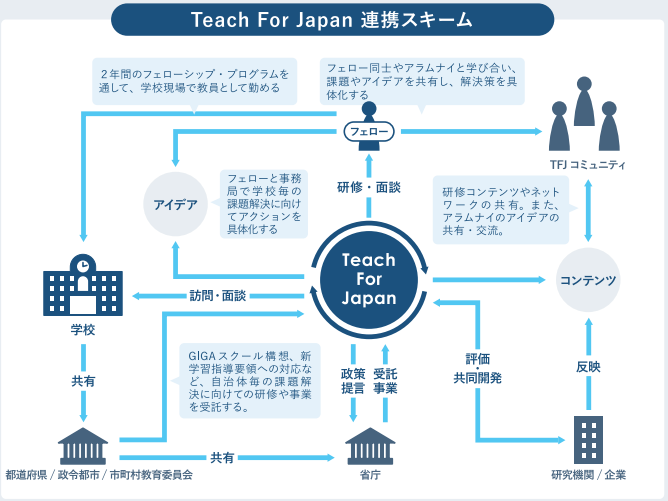
すべての子どもが、素晴らしい教育を受けることができる世界の実現を目指します。

MISSION

教室から世界を変える

フェローシップ・プログラムを通じて、学校現場の教育環境・機会格差などの課題を解決します。

Teach For Japan 連携スキーム



短・中・長期の取り組み

- 短期：フェローは質の高い教育をすべての子どもたちへ届けることを目指し、学校現場の課題を解決します。TFJ は研修や連携を通じて支援を行います。
- 中期：自治体や省庁と連携し、教育システムそのものを変革していきます。研修受託・政策提言などに取り組んでいます。
- 長期：フェローシッププログラムを修了したアラムナイが、チェンジメーカーとして社会を巻き込み、社会課題を解決します。

CEO挨拶

中原 健聡 Takeaki Nakahara



Teach For Japan は「すべての子どもが、素晴らしい教育を受けることができる世界」の実現に向けて、教育環境・機会の格差是正に２０１０年より取り組んで参りました。

２０１９年は TFJ にとって大きな変革の年となりました。今までにないチャレンジングな目標を立て、より多くのフェローを自治体に配置するべく組織体制を強化し、挑戦を繰り返して参りました。その結果、２０２０年４月より配置するフェローは４１名となり、過去最大の人数となりました。新規に連携する自治体も増え、配置先は計９都道府県となります。２０１９年８月には中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会で、臨時免許状や特別免許状の利活用とあわせて多様な社会人の登用について提案いたしました。

日々取り組む中で、学校、自治体、省庁、企業からお問い合わせいただく機会が増え、TFJ への期待はより一層高まっていると感じています。

ここまで進んでこられましたのも、皆様のご支援、ご協力の賜物と改めて感謝申し上げます。２０２０年も引き続き社会課題の解決と教育環境・機会格差の是正に向けて、精一杯取り組んで参りますので、引き続き皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

profile

２０１１年に大学卒業後、スペインへ渡り３年間サッカー選手としてプレー。サッカー選手時代に行ったキャリア教育での講演活動を機に、人が育つ環境をデザインすることを Mission に活動を開始。２０１４年に帰国後、大学事務職員、Teach For Japan Fellow、私学の高等学校の学校開発・経営に従事。キャリアを歩む中で、学校教育において「人」が最も教育効果に影響することに気付き、その「人」を育成して学校現場へ配置する TFJ のフェローシップ・プログラムが、日本が迎えている教育改革やこれからの社会作りに大きく貢献できると考え 2019 年４月より、理事・CEO として着任した。２０２０年１月に代表理事に就任。

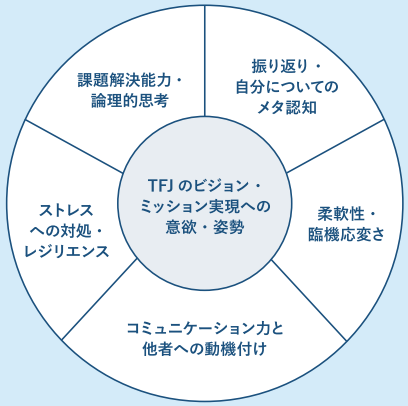
1 選考のプロセス

教育への情熱を持ち、チェンジメーカーとして、教室・地域・社会を変えていく素養を持った人材を選考しています。

TFJ の考える、教師に必要なコンピテンシーに基づいた選考

優れた教師やリーダーが備える資質、行動特性（コンピテンシー）について Teach For America のノウハウに加えて、国内外の知見や専門家の意見を取り入れて、選考基準を TFJ が日本の教育現場や実績に沿ったものにカスタマイズ。これらに基づいて候補者を選考いたします。

※ 選考基準やプロセスは、改善や見直しにより変更になることがございます。



STEP 選考の流れ

参加説明会

Teach For Japan をより知っていただくための説明会やイベントを定期的に実施しております。

エントリー

フェローになるための第一歩は、Web サイトからの エントリー。ご経歴や志望動機をご記入いただくエントリーシートとご自身を紹介していただく動画をご提出いただきます。

書類・動画選考

提出していただいた内容をもとに教師としての適性や TFJ のビジョン・ミッションとのマッチングについて検討させていただきます。

選考会

多面性に鑑みて、選考会ではグループワークと個別面談を通じて評価をします。教師の仕事への適性や、教育への意欲・情熱、さらに今後の成長への期待値を考慮して、総合的に判断をさせていただきます。

研修参加

選考を通過した方は、最長９ヶ月の研修に参加していただきます。教師としての基礎的スキルに加え、多様な課題について学び、チェンジメーカーとして成長していきます。

赴任決定

研修を通じて、本人の能力と適性を再評価した上で、自治体と面談を行っていただき、赴任が内定します。

2 赴任前研修の取り組み

大きな目標を達成する力を育てる研修

Training by **Teach For Japan**

自己成長力

自分の強みと弱みを認識し自己理解を深め、学校現場で自分らしく他者と共働するための土台を築く。

自分史（深い自己認識のワーク）

自分の信念や強みの理解に基づいたビジョンを言語化し、具体的な教育実践に落とし込む。

ビジョンセッション
コーチングセッション

課題を把握し、解決に向けた計画を立て、実行し、振り返るというサイクルを繰り返し、学び続ける力を身につける。

リフレクション
フェローカルテ / 定期面談

コミュニケーション力

多様なコミュニケーションのあり方を理解し、他者と関係を築きながら目的に向かって協働していく力を身につける。

研修企画
グループワーク
マナー

教師としての力を育てる研修

Training by **Teach For Japan**

現場理解

教員としての同僚性を高め、いち早く現場に適応する能力を育むとともに、どのように周囲を巻き込み変化を起こしていくのかについてのイメージを持つ。

アラムナイ座談会/地域別セッション
学校見学 / 学習支援 / 教育実習
教育法規について
学校組織・校務分掌について
学校現場における危機管理について
法令遵守について
児童養護施設の実態
生徒指導
いじめの構造

人権感覚

子どもの人権を尊重しようとする意識と態度を養い、ビジョンや授業設計・学級経営方針に落とし込む。

教育課題ケーススタディ / ロールプレイ / 模擬授業

授業力

授業設計・教科指導の基礎を学び、教育実習や模擬授業などでの実践を通じて授業力を高める。

授業の基本 / 指導案の書き方
模擬授業 / 教育実習 / 学習支援
問いのデザイン
『学び合い』
授業評価
教科教育法

学級経営力

学級経営の基礎や安心・安全な環境形成についての基礎を身につけ、子どもの多様性への理解を深める。

教育のユニバーサルデザイン
Project Adventure
学級アセスメント
特別支援教育

以下の方々にご協力いただきました。ありがとうございました。
公立小学校教諭　奥矢倫知様、髙橋亮太様、菊池義和様、白井匠様
公立中学校教諭　髙田奈々様
私立高校教諭　辻奈由巳様

視野を広げる研修

Training by **外部団体**

社会課題解決力

外部団体と連携し、様々な切り口から社会問題や教育課題、そしてこれからの教育の在り方などについての知見を得る。

イエナプラン	中川 綾 様	（日本イエナプラン教育協会 理事 / 株式会社アソビジ 代表取締役）
性教育	染矢 明日香 様	（NPO 法人ピルコン 理事長）
薬物依存症	秋元 恵一郎 様	（NPO 法人 東京ダルク）
SDGs	上田 壮一 様	（一般社団法人 Think the Earth 理事）
コーチング基礎	関口 寿子 様	（プロコーチ / 3 期アラムナイ）
デザイン思考研修	西山 恵太 様	（株式会社 Curio School 代表取締役）
説明力	伊藤 慧 様	（スポーツ指導者支援協会）
ライティング	船川 諒 様	（株式会社 チャリツモ）
LGBT	進藤 夏葉 様	（認定 NPO 法人 ReBit）
アドラー心理学	遠藤 崇之 様	（新渡戸文化学園 統括校長補佐 / 4 期アラムナイ）
特別支援教育 1（感覚統合入門）	高畑 脩平 様	（白鳳短期大学）
特別支援教育 2（感覚統合応用）	清水 健司 様	（株式会社 Chit Chat）

チェンジメーカーの育成を目指して

研修を設計・実施するにあたって大切にしていることを教えてください。

田中 私が「教室から世界を変える」という言葉にに出会ってから6年が経ちますが、今でも胸々とその意志が受け継がれていることに嬉しく思っています。今年から研修全体に関わるようになり、「教室から世界を変える」この思いを現場で形にしていくことを大切にして取り組んでいます。

小林 大きな目標を持ちながら、足元をきちんと固めることを大切にしています。社会課題に対してビジョンを持ちながら、まずは現場で一教員として認められることが重要です。現場の実態を理解しながら、周囲の人たちと協働して課題を解決していくマインドセットとスキルを育んでいます。

集合研修に加えて、オンライン研修や個別面談も実施しています。どのように設計しているのでしょうか。

田中 学級経営や学校経営の手法を用いて実施しています。候補生の実態に合わせながら、それらの枠組みを生かして設計してきました。

小林 フェロー候補生が、学校教育で重視されている「主体的・対話的で深い学び」ができるように意識しています。この研修自体に、現場で生かせるヒントを盛り込んでいます。

具体的にはどのような研修を実施しているのでしょうか。

田中 研修は、三部構成で実施しています。
第一部は、人としての土台作り（大きな目標を達成する力を育てる研修 ）。自分史作りを通じて、自己認識を深めます。その中で自分の強みと弱みを認識して、現場で自分らしく他者と協働するための土台を築きます。また、子どもを理解するためにも、自分を理解することがとても大切です。第二部は、教員としての土台作り（教師としての力を育てる研修 ）です。教員育成指標に準拠した枠組みに沿った研修です。つまりエビデンスをもとに作成したルーブリックに基づいて、オンライン講座や模擬授業などを行っています。教師に必要な資質を明確にして、今後のキャリアステージの展望を持ちながら成長できるように設計しています。
そして、第三部がチェンジメーカー（視野を広げるための研修）としての土台作り。これは Teach For Japan の特色の一つですが、新たな課題感を高めるためのプログラムです。LGBT 教育、性教育、SDGs など多様なテーマについて学び、深めていきます。これらも、ルーブリックで自身の成長を評価しながら研修を受講してもらっています。



選考・研修マネージャー
小林 大介
静岡大学教育学部卒業後、青年海外協力隊として2年間、中米エルサルバドルで算数教育水準の向上プロジェクトに参加。帰国後、住宅メーカー勤務を経て、神奈川県内の公立小学校教諭として8年勤務。現在は、選考・研修マネージャーとして、志の高いフェローの育成に励む。



大阪教育大学教職大学院特任教授 / 理事、フェロー育成研修アドバイザー
田中 満公子
早稲田大学卒業後、三重県と大阪府の高校で教諭として勤務した後、教頭として1校、校長として3校に勤務。現在は、大阪教育大学教職大学院にて、次世代教員リーダーを養成している。また Teach For Japan の理事、フェロー育成研修のアドバイザーとして、研修開発に取り組む。

最後に、研修の手応えをお聞かせください。

田中 候補生同士のコミュニティが形成されてきていることに期待感を持っています。「このコミュニティに帰れば助けてもらえる」「このコミュニティがあるからがんばろう」というマインドセットができつつあり、現場に赴任したあとも、お互いに支え合えるコミュニティになると思います。多様性があり様々な視点を持つ、同じ志を持った仲間がいることは、フェローにとって大きな強みになるはずです。

小林 子どもたちの人権を尊重する意識や子どもたちのもつ背景を想像する力、職員室での同僚性を大切にする協調性などの育成にたしかな手応えを感じています。学校現場にいっても、何でも抱え込んだり、一人で決めて行動するのではなく、子どもを主語にして物事を考え、周囲に相談する姿勢を大切にしてくれると思います。研修を通して、仲間と共に一生懸命学んできた候補生たちが、心の底から子どもたちのことを大切にしようとする教師となって活躍してくれることを期待しています。

8期の研修生の声

VOICE



友弘 一志
兵庫教育大学大学院
新卒

「良い教育とは何か」この問いを現職教員、アラムナイ、フェローの仲間たちとの対話で深めてきました。全員が共通していたことは、「子どものためにもっとできるはずだ」という思いでした。熱い思いを持った仲間と共に前へ進んでいきたいと思います。



小林 由芽
東京外国語大学
新卒

LGBTQ についてや特別支援、学級経営やデザイン思考などの研修を通じて、自分の視野が広がっていくのを感じました。同期の存在もとても刺激になっています。不安もありますが、それ以上に学校現場にいけることが楽しみです。



北崎 広太郎
九州大学
新卒

研修では、教師としての能力が得られることに加え、新しい価値観や考え方、そして思いのある仲間を得ることができました。それにより、研修で得られる知識やテクニックも、意味を持ったものとして学ぶことができました。



伊藤 プラダハン 信美
大阪外国語大学
タカラベルモント株式会社

多方面に渡り、即戦力を育てる研修に初めて出会いました。特にアラムナイの方々の現場から湧き出る思いがひしひしと伝わって来る研修では、自身の微力さを思い知らされると同時に、自分を高めるためのモチベーションに直結しました。



山下 真一
University of Wollongong
リコージャパン株式会社

研修では、多様性を尊重する姿勢を養う上で重要なテーマ を、SDGs、LGBTQ、イエナプランなど、その道の最前線で活躍されている方々が講師をしてくださるので、具体的な事例まで学ぶことができました。



辻 智之
東京外国語大学
パレットグループ株式会社

多様なバックグラウンドを持つ候補者による「コミュニティでの主体的な学び」が研修の最大の特長だと思います。専門家による研修に加え、候補者同士が各々の専門分野や自身の考えをシェアすることで、幅広い知識や考え方を得られました。



嶋村 梨穂
創価大学
日本アイ・ビー・エム株式会社

指導案作成方法、学級経営、学校組織、人権等の教員として学ぶべき基礎教養に加え、アラムナイや現役教員による模擬授業でのフィードバック、同期と協力して自主研修を行うことで、自身の課題把握・改善が進んでいると感じています。



吉崎 聡一
東京工業大学
株式会社東レ

この研修の最大の魅力は、高い志をもった仲間がいることです。様々なバックグラウンドをもつ仲間と日々学び合うことで、教育に関する知識・技能を学ぶことだけでなく、「どんな先生でありたいのか」について深く考えることができました。



平賀陸人
慶應義塾大学
株式会社クルイト

共に研鑽ができる仲間に恵まれました。同じ研修を受けても、受け取るメッセージには差異があります。違うからこそ、共有することで新しい気づきに繋がるということが多くありました。お互いの考えを積極的にしあえる関係性が何よりの宝だと感じています。

3 フェロー・学校連携の取り組み



7期生（2019.4）


楢府 フェロー（福岡・中学英語）


遠藤 フェロー（福岡・中学英語）

6期生（2018.4）


長嶺 フェロー（福岡・小学校）


高橋 フェロー（福岡・小学校）


藤本 フェロー（埼玉・小学校）


村上 フェロー（福岡・小学校）


北 フェロー（福岡・小学校）


上村 フェロー（福岡・小学校）


森岡 フェロー（福岡・中学理科）

赴任状況

福岡県８名
埼玉県１名

学校数８校
（５小学校／３中学校）

Fellow's CHALLENGE!

課題に果敢に取り組むフェロー

プログラミング教育の推進

遠藤 忍（７期・中学英語）

赴任してすぐ、校務分掌が情報教育担当になりました。担当教科は英語ですが、前職時代に人事職ながらプログラミングの経験があったことから、飯塚市が推進する Pepper プログラミングを校内で主導することに。
「社会に役立つ Pepper」をテーマに、チームごとにプログラミングに取り組んでもらう上で、ロボットの機能やコードそのものを覚えることよりも、プログラム自体のコンセプトや、プログラム・画面デザイン・会話シナリオの分担によるチームワークに重点を置いたカリキュラムを設定しました。また、「本物志向・未来志向」という市の教育方針にもとづいて、Pepper の会話エンジン開発に携わった Web ディレクターを特別講師に招いたり、地域でプログラミングを教える外部人材を活用したりしながら、探究的な取り組みを行いました。
全チームがプログラムを作りきり、校内代表となったチームは市内大会優勝・全国大会出場を手にしました。



Playful な理科を目指して

森岡 真弥（６期・中学理科）



最初の授業でとったアンケートで、理科室で実験をしながら学んだ経験の少なさに驚き、「興味開発」が必要だと思いました。
子どもたちに理科の楽しさを伝えるために、私の Vision である「Playful な理科」が必要だと強く感じました。まず、理科室の学習環境の整備に努めました。その上で、全員が手を動かせるように１人１実験やペアでの実験を計画しました。
その結果、子どもたちが徐々に主体的に取り組んでくれるようになりました。赴任当初は、５教科の中で最下位だった成績も、５教科トップになり、学力向上にもつながりました。また、理科が嫌いな子どもが半分以上を占めていた赴任当初に比べると８割の子どもが理科を好きになってくれました。
子どもが主体的に勉強しようと思うきっかけづくりに今後も取り組み続けていきたいと思います。

地域キャリアコーディネーターとして

北 敢（６期・小学校）

元々大学生の就職活動にかかわる仕事をしており、学生が「やりたいこと」を見つけられないことに課題意識を持ち、色々な大人と出会う機会が教育の中に必要だと考えて、フェローになりました。
教師を始めてすぐに、自分の課題意識を解決するためには、学級内だけで動いても意味がないと気付きました。私自身が地域に出て、様々な人と出会い、その出会いを学級や学校に還元することが求められると理解し、学校現場と地域をつなげる橋渡しのような存在になりたいと思うようになりました。
地域のお祭りでは、神輿を担いだり山笠を舁いたり、炭坑節を次の世代に残すダンスサークルに参加したりと、地域に根差した活動を週末に行いました。２年目の夏には、地域の中学生を対象とした「自分自身と向き合う」キャリア教育事業のコーディネーターを務めました。自分たちの地域の特性を、様々な著名人をお呼びして学び、グループワークを通して考えを深めていくという内容でした。関わった中学生からは「自ら積極的に動くことができるようになった」「先生がチャレンジしている姿を見てチャレンジしようと思った」などの声をいただきました。「人生を楽しんでいる」様々な大人と関わることで、未来に自信を持つことができるようになるのではないかと思います。
これからも地域と学校をもっと密接なものにできるように動き続けたいと思っています。



自分と他人を認められる学級を目指して

藤本 愛祈（６期）



中学３年生の時に東日本大震災を経験し、ミュージカル劇団の団員として岩手県の石巻市に赴きました。被災地の方々と触れ合う中で「人と人との繋がりがもつ力強さ」を実感しました。その経験から、人の繋がりの大切さを伝えたいと思い、「みんなで夢を持てる教室」をビジョンとして教員になりました。
子どもたちと接する中で、失敗や周りとの違いを嫌い、チャレンジや自分らしさを見せることに消極的な姿を目にし、「自分と他人を受け入れ、信じて挑戦出来る様になってほしい」と思うようになりました。
そこで、自分にとってのコンフォートゾーンとチャレンジゾーンを言葉にしてもらうなど「自己認識する機会」や「他者を知る機会」を日々の学級経営の中で作りました。また、自分がやってみたいと思ったことを周りと協力しながら追求する経験をしてほしいと思い、総合的な学習の時間にプロジェクト型の学習（PBL）を導入しました。「ごみ問題を解決するために自分たちにできること」をテーマに、同じ課題意識を持つ子どもたちでプロジェクトチームを立ち上げ、課題解決に繋がる成果物を作ってプレゼンする学習をしました。
少しずつ「失敗を恐れずに自分らしくチャレンジして良い」という気持ちが芽生え、「自分ができないことは人を頼っていい、自分ができることで他の人を助けてあげる」学級になってきていると思います。

4 フェローの想いとフェローが教えた子どもたちの声

お互いを認め合える教室



金澤 克宏 フェロー

専修大学を卒業後、株式会社HISに就職。中国駐在を経験。「自分の目で世界を見て欲しい」という思いからフェローになる。現在はオランダにて教員養成とイエナプラン教育を研究中。

『人それぞれ、いろんな形があって、いろんな色があって、それがいい。』卒業式の日に伝えた言葉です。自分も他人も大切にできるように、コミュニケーションを取る機会や協働する機会を積極的に取り入れようと活動してきました。子どもたちには、これからもいろんな人と話してほしいし、いろんな景色を見て欲しいと思っています。

金澤先生の熱意ある指導に、小学生の僕達は本当に心から信じられる先生と出会ったと感じたのを今でもよく覚えています！『1人はみんなのために、みんなは1人のために』を教えてくれました。そして、ハワイへの短期留学を悩んでいた僕の背中を押してくれ、クラスのみんなからのメッセージを集めてくれたり、Skypeで学校の出来事など小まめに連絡してくれたり、僕の心に寄り添ってくれた事で大きな勇気をもらいました！僕が今でも友達や家族、一人ひとりを大切に想えるのは、金澤先生と出会えたからです。



金澤フェロー教え子
Y くん

How dramatic our life is!!
教室に、生徒に、地域にドラマチックを



岡本多永 フェロー

大阪府立大学を卒業後、学校法人三幸学園に就職。その後、アメリカに留学。子どもたちに、人生をドラマチックにして欲しいと考えフェローになる。現在、株式会社 教育と探求社にて活躍中。

岡本先生は生徒思いで、常に自分たちの事を考えてくれている人です！自学ノートをずっと出せなかった僕に「あなたは将来絶対世界で有名なキックボクサーになるから英語一緒にやるか」と僕だけの英語練習ノートを作ってくれて、宿題は出せなくてもその自学ノートだけは出すことが出来ました。学校が楽しめたのは岡本先生がいたからです！なのにたまに文句を言ったり反抗したりしてしまって、後悔しています。岡本先生のおかげで、中学校生活は一生の宝物になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。



岡本フェロー教え子
T くん

人と出会えば出会うほど、経験すればするほど、人生とはドラマチックになる。これは私の人生で体験した大きな宝物です。英語は出逢いの可能性を広げる魔法の言葉だと信じ、子どもにそれを体感してもらうためにどんなに些細なことでも一緒にドラマチックを起こすことに全力を尽くしました。

一日一日を大切に。感謝していく生き方を

自身の海外や震災地でのボランティア経験や身の回りで起きた命に関わる学びを授業の中で取り上げるようにしてきました。子どもたちには、当たり前の毎日を大切に思い、一生懸命生きて欲しい。周りの人に感謝しながら生きていって欲しいという想いを伝えられるよう、教育現場で働きかけてきたつもりです。



長谷川美沙 フェロー

慶應義塾大学卒業後、株式会社リクルートに就職。その後、人は教育で変わることができるという思いからフェローに。現在は横浜市の小学校にて6年生の担任と外国語科 主任として活躍中。

私がみさ先生の授業を初めて受けた時に、先生が多くの国々に行ったお話や以前の職業についてのお話を聞きました。私はその話を聞いて、人生は沢山の選択肢があって自分の知らない世界が未来で待っているのだなと感じました。授業では英語の授業を英語で進めていて、刺激的だったのを今でも鮮明に覚えています。そのおかげで私は、自発的に楽しく英語を話せるようになりました。みさ先生のことを先生としても女性としても、とても尊敬しています。将来は先生のように世界に羽ばたいていけるような人になりたいです。

長谷川フェロー教え子
K さん





池田由紀 フェロー

早稲田大学を卒業後、伊藤忠商事株式会社に就職。より良い教育を模索するためにまずは教師として学校現場に入りたいと思いフェローになる。現在、Teach For Japanの職員として採用・研修を担当。

池田先生は、ロボットの研究をしている人、プロのダンサーさん、人工流れ星を飛ばす仕事をしている人、奈良の地域で活躍している大人の人たちを授業に連れてきてくれました。イキイキと仕事をしているたくさんの人に出会って、僕も将来は自分の好きなことを仕事にしたいなぁと思いました。まだはっきりとは決めていませんが、人を助ける薬の開発や研究に興味があります。
また、池田先生は給食当番表や掃除当番表を英語で掲示したり、新学期や朝の時間などに黒板に英語でメッセージを書いて意味を教えてくれたり、サンフランシスコから残暑見舞いを送ってくれたり、スカイプでウガンダの子ども、それからシドニーやイギリスなどに住む人達と交流したりもしました。それで英語に興味を持ち、中学生になった今も英語を楽しく勉強しています。
池田先生と過ごした一年間は僕にとってとても印象深い一年です。

池田フェロー教え子
S くん



社会とつながる教室

子どもたちが、ワクワク楽しそうに生きている大人、様々な生き方をしている大人に出会うことで、「こんな生き方もありなんだ！」「大人になるって楽しそう！」と思える機会をたくさんつくりたいと思って取り組んできました。子どもたちには、自分の可能性を限定せず、様々なことに挑戦して欲しいなと思います。

人と協力して自分らしく生きる



遠藤崇之 フェロー

早稲田大学を卒業後、（株）NTTデータに就職。システム営業や人材育成担当を務める。「自分のよさを認めて幸せに生きる人を増やしたい」という思いから、フェローに。現在は学校法人新渡戸文化学園にて統括校長補佐として活躍。

遠藤先生は、勉強だけでは学べない生きる上で大切な事を教えて下さいました。中でも「好信役」のお話では、自分を好きになれる・人に信頼される・人の役に立てる人になろうと問いかけて下さいました。また、帰国子女として他と違ったとしても否定せず、個性として尊重して下さいました。私にとって先生の話は興味深く心に残るものばかりで、その教えは今も心に根付いたまま、これからも私を明るく温かく導いてくれると思います。

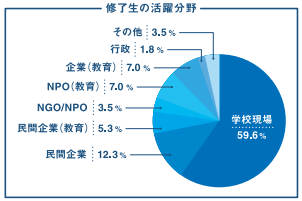


遠藤フェロー教え子
Y さん

「人生を主体的に、幸せに生きる」というテーマを、コーチングやアドラー心理学等を学びながら追究してきました。教室では「自己受容」「他者信頼」「貢献感」を育むことを目指しました。具体的な教育活動として表しにくいので常に葛藤がありましたが、こうして少しでも子ども達の心に残ってくれていたら、これ程幸せなことはありません。

5 修了生の取り組み

２年間学校現場で、子どもたちと向き合ったアラムナイは、それぞれの課題意識やビジョンを持ち、様々なフィールドで活躍しています。Teach For Japan は、アラムナイの活動を支援することで、社会課題の解決を推進しています。



学校事業

修了生が様々なことに挑戦中！



池田 由紀（3期・小学校）
新渡戸文化学園キャリア教育推進担当
キャリア教育のカリキュラムづくりや授業を通して、子どもたちがより多くの多様なロールモデルに出会う機会をつくる！



長谷川 美沙（2期・中学英語）
横浜市中学校の英語科教員 / 外国語科 主任
現在は、小中連携制度を活用して現在、小学校勤務。小学校教育と中学校教育現場に身を置き、小中連携を重視した英語教育の充実を図ることに挑戦中！



遠藤 崇之（4期・小学校）
新渡戸文化学園 統括校長補佐 / 先生の幸せ研究所 パートナー・コンサルタント
新渡戸文化学園で先生兼、学園改革推進プロジェクトに挑戦中！



長村 裕（3期・中学英語）
福岡雙葉中学校・高等学校 グローバル女子教育担当
本質を見抜き先を見通せる女性リーダーを育成！





中原 健聡（3期・小学校）
札幌新陽高校校長の右腕・Teach For Japan CEO
「探究コースのカリキュラム開発」と「教室を変える人材育成」で教育改革を推進！



栗木 直也（2期・小学校）
高清水小学校第3学年主任
ICT 教育の推進, ID（インストラクショナルデザイン）× 探求で、子どもの心を揺さぶる教室へ！

松尾 啓司（4期・小学校）
私立高校　学校魅力化実行委員会 / 課題研究担当
私立高校にて学校をより魅力的にするプロジェクトを推進！



木村彰宏（2期・小学校）
株式会社 LITALICO 人材開発部
島根県津和野町幼児教育アドバイザー・ファシリテーター
子どもから大人までがその人にとってより良く変容できる機会の創出や促進に挑戦中！



井上 可奈子（4期・中学英語）
ゲストハウス てま里運営 / Kanako 's 英会話 SCOPE WORLD 代表
ゲストハウス × 英会話教室を通して、子どもと多様な大人が出会う場を増やすことにチャレンジ！



風間 亮（4期・中学英語）
株式会社 Bee 代表取締役
「子どもたちの主体的な進路選択の実現」をミッションに学習塾の運営およびその他教育関連事業の創造に挑戦中！



金澤 克宏（3期・小学校）
ONKOCHISHIN 1986　代表
教員の「いま」と「これから」を考案。海外の教育情報を発信中！



小野 孝太郎（4期・小学校）
エグゼクティブコーチ・講演家・社会起業家
「心が強くて優しいリーダーをたくさん育てる」を人生のミッションに行動を積み重ねている社会起業家！

教育事業

アラムナイの現役時代の取り組み



ICT 教育の推進
風間 亮（4期・中学英語）
学力格差解消に向けて、民間企業・NPO 法人と協働し、個別学習システムの e-learning を学校に導入。学習の個別化・学習進捗の見える化により、集団授業と個別指導を両立。一人ひとりの学力向上に貢献。



多様性（性的マイノリティー）教育
松尾 啓司（4期・小学校）
多様性（性的マイノリティー）教育を学校のさまざまな場所で実施。教員研修では、教員の小さな気付きが大きな違いに繋がることをプレゼン。児童向けの授業では、絵本を用いて多様性と平等性の大切さを伝えた。



フォニックス英語教育の推進
岡本 多永（5期・中学英語）
実践で使える英語力を育成すべく、体系的なフォニックスの手法を授業に導入し、英語への意欲が高まった子どもたちの学力が劇的に向上。また、地域の英語教育の水準をあげるべく、フォニックスの研修を自治体を巻き込んで実施した。



表現教育
増永 純女（4期・小学校）
飯塚市と積極的な協働を行い「ヤングアメリカンズ」では、子どもたちへ多様な機会を創出したいと考え、市の企業、保護者、教育委員会、NPO 団体と一緒に、2年間で５００人以上の子どもたちにワークショップを届けることができた。

6 その他の事業





学習支援事業

Teach For Japan では、東京都内ならびに埼玉県内教育委員会・学校と連携し、学習支援事業を季節ごとに行っています。東京都内では８・１２月、埼玉県内では３・９−１０月にそれぞれ５日間、合計４回（２０日間）の支援を行いました。赴任前フェローの研修も兼ねた取り組みである本事業は、フェロー候補者含め合計９０名のボランティア講師・運営補助のご参加をいただきました。そのおかげで今年度累計３９３名の児童生徒様へ、放課後や長期休業中の学習サポートを届けることができました。

voice

From 参加ボランティア講師

素晴らしいプログラムだと思います。短い期間ではありましたが、運営されているスタッフの方々の温かさと熱意、今回参加された先生方の教育に対する情熱、暑い中にもかかわらず毎日授業に参加した生徒の真剣な眼差しと笑顔に触れることができ、自分にとって大きな財産となりました。

From 参加児童・生徒

学習支援教室に入って学習力がのびたと思います。昔の復習もできてよかったです。

友達とも楽しく勉強できました。これからの学習も楽しんでやっていきたいです。

自分の苦手な分野を克服するために先生方が一人一人にアドバイスやメッセージなどが各教科ごとに書いてありとてもていねいで分かりやすかった。まだ苦手な教科があるので今回もらったテキストを活用して得意分野にしていき第一志望の高校へがんばりたいです。

Campus ambassador　キャンパスアンバサダー



Teach For Japan では、「情熱のある人材を教育改革の仲間として巻き込むこと」を目指して、大学生向けのインターンプログラムを運営しています。参加する大学生は、キャンパスアンバサダーとして、各大学の学生リーダーとして、学習支援や広報活動を実施しています。このプログラムを卒業したメンバーの多くが、大学卒業後も教育業界に進路を選び、活躍しています。

政策提言

Teach For Japanでは、２０１３年よりフェローシップ・プログラムを通じて、計６６名の多様な人材を学校現場に輩出してまいりました。２０１９年８月に開催された中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会（第１０８回）において、Teach For Japan 独自の選考と研修プロセスによる特別免許状や臨時免許状を利活用した入職の事例についてご説明させていただきました。時代の変化に適応する新しい教育の在り方は、教育課程やカリキュラムだけにとどまらず、教員養成課程や教員免許制度の改革も必須になります。Teach For Japan ではこれまで蓄積してきたノウハウを研究機関等と連携して更に改善、体系化し、新しい教員の養成・採用・研修の構築にも寄与してまいります。

7 自治体連携の取り組み

教員免許の有無にわらず、臨時免許や特別免許の施策を活用して多様な人材を受け入れ、新たな学校創りを目指す基礎自治体と連携しています。その上で、人材確保だけでなく、様々な教育課題を積極的に解決されたい自治体や、協働によって新しい実践に取り組むことにコミットされる自治体および学校法人と取り組みを推進します。Teach For Japan と自治体が相互にリソースを提供することでフェローの紹介に留まらない新しい連携を各地で創出しています。

OUTCOME

過去7年間で **11** の自治体に

66 人 のフェローを ご紹介してきました。

2020年は、**9** 都道府県の過去最高の 自治体に
（東京、千葉、埼玉、大阪、奈良、福岡、熊本、長崎、大分）

41 人が赴任します。

VOICE 自治体の皆様からの声



福岡県教育庁 / 教育監　中島 良博 様

本県では、平成２７年度から飯塚市を皮切りに、これまで４市町の小中学校にフェローを派遣していただいており、誠に感謝申し上げます。ある派遣先の学校からは、「全体の学校力の向上に大いに貢献していただきました。」という賞賛の声も上がっています。

学校においては、子どもたちの健やかな成長や人格の形成に大きな影響を与える良き教員の存在は必要不可欠です。フェローの中には、多様なキャリアを持った魅力ある人材が多く、そのような方と接することで子どもたちが夢を意識し、意欲を掻き立てることにつながるのではないでしょうか。さらには、学校や地域の活性化にもつながっていくものと考えております。

今後も、“Teach For Japan”の活動がさらに充実することを期待しますとともに、「熱意」のあるフェロー（教師）の方たちを心よりお待ちしております。



東京都港区教育委員会 / 事務局学校教育部 / 教育指導課長
松田 芳明 様

本区は、TFJ と、今回初めて連携させていただくこととなりました。私自身、TFJ の存在や活動について、以前より知っておりましたが、教員は県費職員ですので、区教委としてフェローの方にご勤務いただこうとは考えて来ませんでした。

今回は、区費の講師として、４月より勤務をいただきます。具体的には、本区の東町小学校と南山小学校に設置している English Support Course（外国人児童で近い将来帰国の予定がある児童の受け入れ）で、通訳や取り出し授業等を行っている教員（English Support Teacher）として、英語力が高く、外国人児童を地域の学校で受け入れるための支援に意欲のある方をお願いしています。

また、TFJ は港区に本部を置く NPO ですので、フェローの受け入れだけでなく、研修や教員のアラムナイとの交流など、港区の教員の資質向上につながる取組の実現についても期待をしています。

このことによって、中原 CEO の目指しておられる、「社会を構成する人を育てる学校の教室から世界を変えたい」という思いの実現とチェンジメーカーの育成につながり、より良い社会の形成に寄与することができるよう願っております。



埼玉県戸田市 / 教育長　戸ヶ崎 勤 様

本市では、子供たちに、非認知スキル、２１世紀型スキル、汎用的スキルの育成を目指して、産官学民と積極的な連携を図りつつ様々な教育活動を推進しています。TFJ とは４年前から連携させていただいており、これまで大きな教育成果を挙げております。非認知能力が極めて高い人材を輩出している TFJ との連携は、「やり抜く力の育成」など子供たちの非認知スキルの向上や、様々な教育活動の質的向上に繋がっています。

戸田市で勤務する TFJ のフェローの方々は、すべての教育活動に前向きで情熱を持ってチャレンジしており、まさに中原 CEO の目指しておられる、「社会を構成する人を育てる学校の教室から世界を変えたい」という強い信念を感じます。その信念は、フェローの皆さんから本市の教職員へと確実に伝播しています。本当にありがたく思っております。



戸田市立戸田第一小学校 / 校長
髙橋 博美 様

TFJ のフェローとして本校に派遣された職員は、優秀で柔軟です。「人を育て、社会を変える」という明確な意志がステキです。「総合的な学習の時間」を「環境プロジェクト」として PBL 型にし、学年におろし、学年全体で子供たちと楽しく学びを進めてくれています。

英語の授業では、子供たちが身振り手振りを交えながら「英語で何とか伝えたい」という姿にしてくれます。
授業を進めていく上での、「授業力」、支える「学級経営力」「生徒指導力」については、経験値のなさはもちろんあります。しかし、それを上回る「意志・情熱」と、「子供によりそう姿勢」、そして「学ぶ姿」が子供たちの学びの心に火をつけます。

TFJ の職員を受け入れることで、学校文化に風穴が開きます。私自身も、新たな刺激を受け学び直すことも多いです。これからも是非、本校へ（！）TFJ フェローを派遣してください！

MESSAGE　Teach For Japan への応援メッセージ



京都芸術大学 副学長
本間 正人 様

私は「教育学から学習学へ」を提唱し、教室での一斉授業中心の従来型の学校教育を様々な方向から進化させる取組みに関わっています。社会に出れば、互いに協力し合うチームワークが大切なのに、学校では「個人主義モデルの競争主義」が過剰に偏重されてきました。
学校は地域社会から隔絶され、コミュニティの一員としての意識が希薄でした。
TFJ は、新しいタイプの教員を養成し、学校に送り込む事業を通じて、地域の多様なニーズを教育活動に反映し、地域連携や国際化を大きく前進させる可能性を持っています。今後、現役教員のエンパワーメントにも力を注ぎ、Eラーニングが進歩する時代に、人間しかできない教育を支えることを期待しています。



Google for Education 日本代表
小出 泰久 様

私たちは、全ての教師と生徒に学びに最適なツールを提供するということをミッションに、全国で教育の ICT 化の必要性を伝えています。今後、Google for Education のようなテクノロジーは、文房具の 1 つとして当たり前に学校現場にあるものとして受け入れられていくと思います。
そんな中、国が打ち出している 1 人 1 台の環境が実現したあとに、テクノロジーをどのように活用していけるかは、TFJ のフェローのように教育に対して情熱がある方々なくしては実現できません。今後も、TFJ と協働を進められれば幸いです。



株式会社ボーダレス・ジャパン 代表取締役社長
田口 一成 様

「教師はもっと社会のことを知るべきだ」こう投げつける言葉に、私は大きな違和感を感じます。子どもたちに社会のことを伝えたいのなら、教師にすべてを押し付けるのはなく、社会で働く僕らこそが教育現場に入っていくべきなのではないか。そう考えている時に知ったのが Tech For Japan のフェローシップ・プログラムです。
ボーダレスグループ３２社で働くすべての社員はいつでもこの２年間プログラムに参加することができ、またプログラム修了後は元の会社に復職できる「留職制度」を導入しました。
企業と学校をつなぐこのプログラムが子どもたち、教師たち、そして民間企業で働く大人たち、みんなにとって有意義なものになるよう取り組んでいきたいと思います！



麻生セメント株式会社 代表取締役会長
麻生 泰 様

Teach For Japan に出会って数年経ちます。世界的に高い評価を受け、期待されている子供たちの視野拡大、国際対応への興味と参加意識の高揚など大いに期待し、かつ成果を上げてきています。中原さんが新しいリーダーとなり、自分が実践し成果を出した実績を通して大きなステップアップを目指しています。私は応援していきます。教育現場に変化を与えるというのは実に厚い壁が存在する中で、世の中も教育課題が深刻、真剣さが増しています。飯塚市でこれだけの現場での変化、成長がフェローによって起こり、周りの教員、校長方に与えている影響は素晴らしいです。これを体系として強化していくことが大切です。私は大いに期待し中原さんそしてフェローを応援します。



文部科学省 大臣官房会計課 総括予算班 総括係長
小原 聡真 様

省内の研修制度を利用し、北海道の東神楽町で 1 年間小学校に勤務した経験があります。たった１年間でしたが、ここには書き表せないほどの学びを得て、教育観を大きく揺るがす経験となりました。現場経験のない者が教育を語ってはいけないとは全く思いません。しかし、多様な背景を持った方々が現場に関わることで、学校だけでなく、関わった人自身の変容にもつながると感じました。そうした意味でも、Teach For Japan のプログラムで過ごす 2 年間は、非常に魅力的なものではないかと思います。
現在、「教育・学びの未来を創造する教育長・校長プラットフォーム」の事務局としても、様々な教育実践者がつながり、連携する場の創出に取り組んでいます。私自身、一人の「教育実践者」として、日本の教育を盛り上げていきたいと考えています。



東京学芸大学 教授
金子 嘉宏 様

「教育」という営みにおいて「知識・技能を獲得させる」ことから「主体的な学びを相互に支援する」ことに重点が変わってきているように思います。子どもが「教えられる対象」ではなく「学ぶ主体」へ、大人が「働く社会の一部」ではなく「学び続ける主体」であれればよいと考えています。そして、教員も多様な支援を受けながら学び続ける主体であることで、よりよい子どもの学びの支援を行えるのではないでしょうか。
Teach For Japan は「多様な大人が学校に入って教育活動 を行う」ことを支援されています。この仕組みは学校に入ってい くフェローにも、現場の教員にも、学校に通う子ども達にも、「相互支援」と「学び」を生み出す、まさに「学び合い」の仕組みと言えます。教育の現場を「大人も子どもも協働して、学び合う場」に。そんな教育現 場 の 実 現 へ の 第 一 歩 と して Teach For Japan の活動にとても期待しています。



コモンズ投信株式会社　SEEDCap 担当
馬越 裕子 様

教育への情熱を強く持ち、社会で多種多様な経験を積み重ねた人材を、教育現場へと投入していくプログラム。米国で生まれ、成功を果たした同プログラムが日本で始まったと知り、大きな期待を抱いたことを今でも覚えています。
現在の CEO 中原さんに初めてお会いしたのは 2016 年、中原さんがまだフェローの時のこと。「今、そしてこれからの時代を生きる子どもたちの為に、自分が出来ることは諦めずに挑戦したいと思います！」当時の中原さんが発したこの想いは、目下現場で奮闘中のフェローの方々の中にも脈々と受け継がれています。
こどもたちを取り巻く教育環境の格差解消に対する彼らの想いは「本気」、わたしはこの「本気」を心から応援しています。
Teach For Japan は、「教室」から世界を変える存在。新しい風を吹き込む彼らの存在に、こどもたちと、教育現場のより良い未来を感じています。

GLOBAL NETWORK

Teach For All について

１９９０年に当時プリンストン大学の 4 年生だったウェンディ・コップ氏によって設立された教育 NPO Teach For America のモデルを世界各国で展開するために設立されたグローバル組織です。現在は世界５３ヵ国が加盟しており、Teach For Japan も Teach For All に所属し、ノウハウや情報の共有を行い、組織としての発展を続けています。また、世界中で蓄積されたノウハウや知見を教育現場へと提供していきます。





ウェンディ・コップ（Wendy Kopp）

Teach For America ファウンダー　Teach For All 共同ファウンダー／ CEO
1989 年、プリンストン大学在学中に Teach For America モデルの構想を卒業論文にまとめ、1990 年に Teach For America を創設。2003 年クリントン・センター・アワード、2004 年ジョン・F・ケネディ・ニューフロンティア・アワードなど多数の賞を受賞した他、2008 年『タイム』誌の選ぶ世界の重要人物 100（「TIME 100」）に選出される。FastCompany.com による「45 の社会的起業家たち」に複数回選出。2012 年ダボス会議に出席。

＼ CEO の中原が Teach For All Global Conference に参加してきました ／



Teach For Japan は世界５３か国に展開する Teach For All の一員として、毎年グローバルカンファレンスやイベント等に参加し、加盟国とグッドプラクティスの共有や学び合いを行っています。

２０１９年のグローバルカンファレンスはアルメニアにて、「How can we prepare students to shape a changing world? ～変化する世界を作るために、どのように生徒を備えさせるか～」というテーマで開催されました。

カンファレンスは Teach For Armenia のフェローが赴任する学校の生徒によるオープニングスピーチで始まり、アルメニアの首相からは「教育の中心にあるべきは、政治や経済ではなく、それを享受する子どもたち自身なのだ」と力強いメッセージが伝えられました。

各セッションでは、現代においてこれまでの教育の常識はこれからの常識ではないこと、だからこそ私たち大人が、リーダーシップを発揮しなければいけないことを軸に、各国の現状やチャレンジについて共有しました。

Teach For Japan からは、日本はまさに教育改革のさなかで、混沌としている状態を打開する人材が求められており、大人の主体的意識改革が必要だと感じていることを伝えました。また、日本では教育活動を通じて「生きる力」の育成を目指しているが、*２０１８年の１９歳以下の自殺者数が１９７８年以降最悪の結果となり、特定できた原因・動機のうち最も多かったのは「学校問題」だったことについても共有しました。

その事実に対して参加国からは、「日本の教育は規律があり先進的という印象であり、また、紛争や絶対的貧困率が限りなくゼロに近い国であり教育へのアクセスも整っているにもかかわらず、子どもたちが自ら命を絶つという選択が増えていることは非常にショッキングだ」という声があがっていました。

Teach For Japan は学校現場の課題解決に加え、子どもを取り巻く社会課題の解決に向けて大きなチャレンジを迎えており、世界各国の様々な取り組みからヒントを得て社会全体のシステムチェンジを起こしていくことを共有しました。





STORY

Teach For Japan のあゆみ

1990 ウェンディ・コップ（Wendy Kopp）がTeach For America 創設。



2007 Teach For All創設。

2008 Teach For Japan ファウンダーの松田が、ハーバード教職大学院在学中にウェンディ・コップ（Wendy Kopp）と出会う。



2010 Teach For Allネットワークに加盟するため、「Teach For Japan 準備会」を設立。

社会福祉士・ケースワーカー・教育委員会と連携し、まずは放課後を活用した学校外での学習支援プログラム（Learning For All（LFA））を開始。



2011 Teach For Japanフェローが学校現場に２年間赴任する「フェローシップ・プログラム」のパイロット版プログラム（１年間）を、連携先の教育委員会と共に実現。フェローたちは、授業のサポートともに、放課後学習の担当者として子どもたちの教育にあたった。

2012 １年半の歳月をかけて様々な要件を満たし、Teach For Allの２３か国目の加盟国としてネットワークに参加（２０１３年８月時点で計２９か国の加盟国）。

2013 選抜を通過した１１名の１期生が、関西・関東の小中高校で赴任を開始。



2014 ２期生が、関西・関東の小中学校で赴任を開始。

Learning For All（LFA）事業がNPO法人として独立。

2015 福岡県の自治体とも連携を開始し、関西・関東・九州の小中学校に、３期生が赴任。

11 名の１期生がプログラムを修了。



2016 ４期生が福岡および埼玉の小中学校へ赴任。

CEOに１期修了生の白田直也が就任。

12名の2期生がプログラムを修了。

2017 ５期生が福岡県および埼玉県の小中学校へ赴任。

１３名の３期生がプログラムを修了。



2018 ６期生が福岡県および埼玉県の小中学校へ赴任。

１２名の４期生がプログラムを修了。

2019 ３期修了生の中原がCEOに就任し、新体制で新たなチャレンジを開始。

７期生が福岡県の中学校へ赴任。

９名の５期生がプログラムを修了。

FINANCIAL STATEMENTS 財務諸表

令和元年度　活動計算書

（単位：円）

科目	金額	小計・合計
【A】 経常収益		
1 受取寄附金		40,155,015
受取寄附金	40,155,015	
2 受取助成金等		29,936,986
受取民間助成金	29,936,986	
3 事業収益		4,559,883
教育支援事業収益	4,559,883	
4 その他の収益		141,492
受取利息	381	
雑収入	141,111	
経常収益計		74,793,376
【B】 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		21,915,583
給料手当	18,329,963	
法定福利費	3,243,067	
通勤費	342,553	
(2) その他経費		30,688,986
福利厚生費	44,105	
インターン活動費	18,000	
荷造運賃	204,355	
広告宣伝費	4,365,606	
会議費	909,371	
会場費	1,151,325	
旅費交通費	8,272,553	
通信費	387,375	
消耗品費	294,222	
事務用品費	103,510	
水道光熱費	157,561	
新聞図書費	93,265	
印刷・製本費	352,669	
諸会費	120,692	
支払手数料	490,356	
支払リリース料	310,961	
地代家賃	1,950,803	
賃借料	451,398	
租税公課	1,124	
支払報酬料	10,928,638	
雑費	81,097	
事業費計		52,604,569
2 管理費		
(1) 人件費		10,154,724
給料手当	8,509,429	
法定福利費	1,495,073	
通勤費	150,222	
(2) その他経費		9,354,855
福利厚生費	21,316	
荷造運賃	84,994	
広告宣伝費	858,473	
会議費	37,861	
会場費	115,984	
旅費交通費	643,758	
通信費	322,455	
消耗品費	232,558	
事務用品費	138,597	
水道光熱費	88,728	
新聞図書費	29,662	
印刷・製本費	20,120	
諸会費	236,915	
支払手数料	317,026	
支払リリース料	98,899	
地代家賃	1,043,797	
賃借料	4,302	
租税公課	21,692	
支払報酬料	5,011,925	
雑費	25,793	
管理費計		19,509,579
経常費用計		72,114,148
当期経常増減額【A】－【B】・・・・①		2,679,228
【C】 経常外収益		
経常外収益計		0
【D】 経常外費用		
経常外費用計		0
当期経常増減額【C】－【D】・・・・②		0
税引前当期正味財産増減額 ① ＋ ② ・・・・③		2,679,228
法人税、住民税及び事業税・・・・④		70,000
前期繰越正味財産額・・・・⑤		51,775,332
次期繰越正味財産額 ③ － ④ ＋ ⑤		54,384,560

令和元年度　財務目録

（単位：円）

科目	金額	小計	合計
【A】 資産の部			
1 流動資産			
			69,535,443
現金預金		68,082,148	
普通預金 新生銀行／本店	45,074,814		
普通預金 みずほ銀行／渋谷中央支店	40,921		
普通預金 三井住友銀行／丸の内支店	20,319,100		
普通預金 三菱 UFJ 銀行／新橋支店	2,547,827		
普通預金 ゆうちょ銀行	99,486		
未収入金		782,312	
過年度 源泉所得税過納分	255,009		
年末調整還付未収分	192,900		
経費過払分	334,403		
前払費用			
事務所家賃（２年１月分）			
その他諸経費			
仮払金			
仮払金期末未精算分			
流動資産合計・・・・①			69,535,443
2 固定資産			
(1) 有形固定資産		2	
器具備品			
Apple iMac	2		
(2) 投資その他の資産		40,000	
敷金			
タイムズ２４	10,000		
固定資産合計・・・・②			40,002
【A】資産合計 ①＋②			69,575,445
【B-1】 負債の部			
1 流動負債			
			69,535,443
未払金		3,535,328	
経費未払金 従業員・インターン他立替	411,014		
経費未払金 社会保険料	1,500,224		
経費未払金 その他諸経費	1,624,090		
預り金		205,250	
源泉所得税	100,921		
住民税	26,600		
社会保険料	77,729		
前受助成金		11,380,307	
令和元年１２月期前受助成金分	11,380,307		
未払法人税等		70,000	
令和元年１２月期確定申告分	70,000		
流動負債合計・・・・③			15,190,885
【B-1】負債合計 ③			15,190,885
【B-2】正味財産合計 【A】－【B-1】			54,384,560

令和元年度　貸借対照表

（単位：円）

科目	金額	小計・合計
【A】 資産の部		
1 流動資産		
		69,535,443
現金預金	68,082,148	
未収入金	782,312	
前払費用	482,718	
仮払金	188,265	
流動遺産合計・・・・①		69,535,443
2 固定資産		40,002
(1) 有形固定資産		2
器具備品	2	
(2) 投資その他の資産		
敷金		
固定資産合計・・・・②		40,002
【A】資産合計 ①＋②		69,575,445
【B-1】 負債の部		
1 流動資産		15,190,885
		15,190,885
未払金	3,535,328	
前受助成金	11,380,307	
預り金	205,250	
未払法人税等	70,000	
固定資産合計・・・・③		15,190,885
負債合計 ③		15,190,885
【B-2】 正味財産の部		
前期繰越正味財産額		2609228
当期正味財産増減額		51,775,332
正味財産合計		54,384,560
【B】負債及び正味財産合計【B-1】＋【B-2】		69,575,445

PARTNER & SPONSOR ご支援いただいている皆さま

私たちの活動は、個人や企業・団体さまからのご支援・ご寄付によって成り立っています。
日頃より、ご支援いただいている皆さまに厚く御礼申し上げます。

MFS　DHL　DWS　BARCLAYS　VB VALUE BOOKS　VQ ビザスク　nikko am Nikko Asset Management　Jvpf Japan Venture Philanthropy Fund 日本ベンチャーフィランソロピー基金